

中国 JH-7A 戦闘爆撃機がロシアの射爆撃戦技競技会に参加

漢和防務評論 20160203 (抄訳)

阿部信行

(記者コメント)

ロシアで行われた空軍の戦技競技会に中国空軍の JH-7A が参加しました。中国空軍の主力戦闘機は、J-10、SU-27SK、J-11、SU-30MKK などですが、なぜか戦闘爆撃機の JH-7 だけが参加しました。ロシア空軍と公の場で競技することはあらゆる面で実力が評価されるので避けたのかもしれませんが。中国のコピー戦闘機は、問題ありで表に出せないのかもしれませんが。或いはロシアに利用されるだけなので、付き合っただけなのかもしれません。

中国の JH-7A 戦闘爆撃機が 2015 年のロシア空軍射爆撃戦技競技会に参加した。中国は、今後もこのような競技会へ参加する可能性がある。中国空軍パイロットの技術は、ロシア空軍パイロットと比べてどうなのか？このような競技会では当然実力は分からない。少なくともこのような競技会では最新の武器系統が使われることはない。特に精密誘導の空対地武器は使用されない。中国の JH-7A は、レーザー誘導爆弾、衛星誘導爆弾等を搭載できる。また JH-7A の空中機動は競技課目には含まれず、戦闘爆撃機としての競技課目は普通爆弾による投弾の精確さを競う課目だけであった。

競技の結果、中国空軍は 3 位であった。2 位にもなれなかった。このことから、JH-7A パイロットの戦技能力がある程度わかる。カザフスタン空軍が 2 位であった。これは偶然ではない。同国経済は近年来躍進が目覚ましく、新型航空機が増加、訓練の水準も大幅に高まっている。

「2015 年国際軍事技術競技会の一部として、” 航空ダーツ” (Aviadarts) 空軍飛行戦技競技会の国際部門は、2015 年 8 月 2 日から 8 日まで RYAZAN 地区の DUBROVICH I 空軍訓練基地で行われた。ロシア本国空軍は、競技会の前、5 月 27 日から 6 月 1 日まで VORONEZ 付近に位置する POGONOV O 空軍訓練センターで参加パイロットの選抜を行った。” 航空ダーツ-2015” 射爆撃競技会に参加した空軍パイロットは、彼らの武器運用技術を披露したが、これは演習ではなく、純然たる競技会であった。この競技会では様々な作戦環境下での作戦技能と個人の技術が試された。ロシア空軍は、140 名のパイロットの中から参加者を選抜した。最も優秀な成績を修めた者が競技会への参加資格を得た。ロシア空軍パイロットは” 航空ダーツ” 競技期間中、白ロシア、カザフスタン及び中国空軍のパイロットと競技を行った。」

今年 (2015 年)、ロシア国防부는、DUBROVICH I 基地で行われる国際的な” 航空

ダーツ” (Aviadarts) 空軍戦技競技会のために様々な工夫を行い、競技のための独特の標的を製作した。競技は、主として航空爆弾、ロケット及び機関砲による特定地上目標を攻撃する方法で行った。射場勤務員は、事前に弾痕を修復したり地面を修理したり射場の整備を大々的に行った。数ヶ月の期間内に、整備した射場内に大量の廃棄装甲車、装輪車両を配置した。これらの車両は模擬地上目標であった。世界最大のヘリ、MIL MI-26S 及びロシア空軍施設部隊の特殊車両がこれらの模擬地上目標を運搬した。

廃棄された MIG-29 戦闘機 (約 30 機) が初めて標的として使用された。8 月までに、射場内に 50 個を超える標的が設置され、敵飛行場、装甲車両部隊、車両部隊を模擬した。

今回の競技会には、ロシア、白ロシア、カザフスタン及び中国から 100 名以上のパイロット及び 12 種類の作戦機及びヘリが参加した。競技参加機は RYAZAN、BRYANSK、KALUGA 空軍基地から射場に向けて離陸した。

残念ながら、競技会初日 (8 月 2 日) に事故が起きた。ロシア空軍”金鷹”展示飛行隊の MIL MI-28N 型ヘリが飛行演技中に墜落、隊長 IGOR BUTENKO 大佐が死亡した。事故発生後、ロシア空軍司令 VICTOR BONDAREV は直ちに MIL-28N の飛行停止を命じた。同型ヘリを操縦するロシア空軍パイロットは、競技会参加を中止した。

競技会は、事故により一時中断したが、8 月 5 日になり継続実施を決定した。パイロットたちは、実弾を発射し攻撃の精確度を競った。ロシア国防部長 SERGEI SHOIGU は、現場で競技を参観した。航法と飛行技術の競技は翌日行われた。

ロシアは、MIG-29SMT、SU-30SM、及び SU-35S 戦闘機、SU-24M、SU-34 戦術爆撃機、SU-25 攻撃機、TU-22M3 長距離爆撃機、IL-76 空中給油機、及び KA-52、MI-35M、MI-8 ヘリが競技に参加した。白ロシアは SU-25 攻撃機を、カザフスタンは MIG-29、SU-27 戦闘機、SU-25 攻撃機及び MI-8 ヘリを参加させた。中国空軍は JH-7A 戦闘爆撃機を参加させた。

競技会の結果は 8 月 8 日に発表された。第一位はロシアチームであり、9 個の競技課目中、全てが 1 位であった。競技課目は、攻撃機部門、戦闘機部門、爆撃機部門、陸軍航空部門 (輸送及び攻撃ヘリ)、長距離爆撃機部門、航空輸送部門及び今年初めて設けられた航空技術部門に分かれていた。カザフスタン共和国チームが 2 位で、中国空軍チームが 3 位であった。

今回競技課目は去年に比べ倍に増え、競技実施のための飛行時間総計は 300 時間を超えた。

注目すべきことは、今回の競技会で運営に当たったグループは、全ての参加チームが最大限に能力を発揮できるよう努力を惜しまなかったことである。また彼らは、多くの参観者が射場で直接観戦できるよう図った。その規模はモスクワ航空ショーに勝るとも劣らぬ規模であった。競技会の日は天候に恵まれ、観衆は自らの目で戦闘機の競技を見た。

またこの競技会期間に、ロシア空軍の 3 個アクロバットチーム間の演技競技会も行

われた。各アクロバットチームの飛行動作の協調性、精密性、個別の演技技術が人々の目を引き付けた。MIG-29 戦術戦闘機の” 極速” アクロチームはモスクワ地区の KUBINKA 空軍基地から飛来し優勝した。SU-27 のアクロチームである” 騎士” アクロチーム（通称ロシアンナイツ）は 2 位、3 位はスホーイ戦闘機の” 戦隼” アクロチームであった。後者は LIPETSK 空軍基地に駐屯している。

特技飛行の個人部門は独立した競技課目であり、” 極速” アクロチームの SERGEI OSYAIKIN 中佐が 1 位、” 戦隼” アクロチームの ALEXANDER GOSTEV が 2 位、3 位は、” 騎士” アクロチームの ANDREI ELEXEYEV であった。

以上